



源氏目録
上
いよわ
らまそ





一

花鳥序云あづまはもろくのうのいふまはうへに
 家を弟のちの中はあづまのうへにこれをもつ
 氷はらぬとさうさうははははとさうさうさうさうさうさう
 見がけむのうへに光をさす我國の玉寶も海氏物語
 一さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 地とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まららうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 の河海抄のうへに今をさうさうさうさうさうさうさうさう
 てさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ころさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 真とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



四

弘

そのつれづれにひろひあやうらひあはるるつれづれに先達の
とくしうまそむくされば後生のうもぐらんぞとてい
ざんやつわらゑん眼のまぶす代筆舌一のべて飛鳥
餘情と名づくるまぶすあやうらひ
宇治の大羽玄物語云今六じう一越前守為時とてい
世のめてさくやうらひける人いびくさ記或があや也
この為時源氏いけりけりあやうらひけるまぶす
とびとあまうせさけりけるまぶすいのみこのつれ
写るてびとあまうせさけりけるい源氏いけり
うらひけるまぶすい源氏いけりける
うらひけるまぶすい源氏いけりける

一頃徳院御記兼久一切物語雖多或有復或訛度也伊勢物
語ハ詞指事るけれとを上げめり詞対勝也大和ハ無下
其外無何物語盡も不見其途之有也源氏物語ハ
不可説物也更非俗人う不為紫或書之始一條院有
説不可説物也或ハ日本記とていさうくうらひけれと
氣御時元徳内侍始論言号日本記御云誠
諸道諸藝皆編一篇不可説未曾有下説源氏哥ハ
方也狭衣哥こ能くれと云人ましく云い糸心浮浅
事也更非同日論議狭衣哥もかく不悪ハわれと也源氏
哥不可及事雲泥也凡哥道ハ知与不知水火者也源氏
ハ才一は詞つき凡人ち不為不可説事也才二哥秀

ふ前の准按誠よりせありとていへども此物漢光源氏
とむねとす所歎されば西宮左大臣は准ずると一世の
源氏左遷の依は同いれども皮公好色の先達とい
きしてこそうえざりや今の物漢は殊にい道とわい
う歎答曰はくはれがさうのちい大綱は其人乃
おもひがれども行治よきそもあらず地よきとく
まかれを換すりこころ漢朝の書籍春秋史記か
こい実録もわく有異同歎
一桐壺帝冷泉院を延長天曆よりず一人もあらず或は
唐の玄宗のころ紀ありとて或は秦始皇のころ
ころ例をさうをり又天慶の門は相續の皇胤あり

れどもいれどもさうは朱雀院の皇子今上冷泉院の
以後ち一或は曰は条有
作者意趣光源氏とて安和の左府は此とて
いれども好色のい道の先達ありゆへは在中將の
風とすれびて五條二条の后を藤雲の女院勝月秋の
尚侍よりそへ或はいこのか將のそよりをとおへり又
太上天皇の号号も漢家よりたか公の旧躰本朝より
壁王子ホ先蹤を摸どり歎是作物語の習也といれども
いづれのい時よりとて分明は書ありといふもいれども
いれども下は延喜のい時とて心をつくりいれども
桓武一条院を相壺の門は准は又内大臣停園公を光源
氏は概するといふ一巻も歎皆以謬説也若桓武

菘のうしろのうしろとていふ事あり

二十の菜上下丹とていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

小松系書札のひひとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女一柏木 丹とていふ事あり

柏木は葉のりの神にまじりていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女二横苗 丹とていふ事あり

横苗は苗のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

丹 丹とていふ事あり

丹のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女三夕霧 丹とていふ事あり

夕霧は霧のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女四御法 丹とていふ事あり

御法は法のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女五幻 丹とていふ事あり

幻は幻のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

女六雲隠 丹とていふ事あり

雲隠は雲のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

い巻の名のわりていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

れ巻のうしろとていふ事あり。或は下巻をあらう事あり

と也万葉神龜六年。大日長命王賜死。後作丹

天皇は... 丹とていふ事あり

け外不可勝計。丹とていふ事あり

丹とていふ事あり

源氏同業卷第一

同業上

一 つれのぬ時よりけ 姦端の辞甚深也先作者とわらりる
どすつる人よりやうに書けり 卷これ始終もそこれ越あを
傍人の難とかりうかおな也 姦端のぬ門のぬ時の夏也 伴覺集
の始ももつれのぬ時よりあるらん け初ををられ也

一 つと 完也 一 つと人の人のうらわらそ

一 つと 完也 一 つと人の人のうらわらそ
桐壺の更衣の母人をかめり心也 一 つと人の人のうらわらそ

一 つと 早晩也 一 つと 助後 一 つと 諫也 禁制の心

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと 一 つと

同業上

同業上

一 受戒さうり也

一 十六夜也

一 落着也

一 鶴本草云頸短一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一 一丈也

一いつくく 有職也又右族也 一院 寛平法皇よりぞうくべー

一いつくく 飯よひせよ。子飯をへたり。今婦がめへーも曰

一いつくく 道ちりりも 後の世のたの〜もりり

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

一いつくく 道ちりりも 風のそりりた家のやぢりりも

ゆへに加階のついでに
一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一いつくちく教心なり

一けりちりき 暮る 暮暮りよひちりさうちりるべー

一けりさむさ 将寒肌とれこらてふむ況もき層の寒也

一けりぐさううらく愛心 一けりぐさめ虫門と更衣とれ

一けりはりへらむぐらじの養育の心也

一けりひとろへん松とけさん 在天願作比翼鳥在地願作連

理校 長恨寺 一けいぜん 陪膳也 四位者上人

のすみ後とりりり 一けりきちてきた けりた乃

初聊じりり 母志のかり 一けりし時 皆人そねりあお母志乃

ケとしてぶらよらと給へら今いらく松事わどと云心ぬべー

一けりせ 樽士 一けいり ちりみ 親主以下礼

服の舞の舞の清涼殿の東の庭よそれ歩へ向ふ舞あり

一けりアビラ草筆の〜〜〜

一けりぶら 不省 一けりやうもとの〜〜〜

とつち音の事也 一けりげき 勵念也

一ばんちらとてう 盤渉調の冬の酒子なれおよあひて引ぬべー

一けりうきとらり 傍側わ〜いなる心也 飽足は後取

一けりちりぬ本のめ 夏なれがけりも也

一けり〜〜〜 股つ〜〜〜

一けり〜〜〜 常の志〜〜〜

一けり〜〜〜 花鳥 下〜〜〜

一けり〜〜〜 車よもも

ト〜〜〜 人の志〜〜〜

一けしつわく 兄弟也 同腹 一母してゆくあふべれ 松風の巻

大井の巻 兼明親王ととも松の枝ぬは 唯じて心うべ

一けらるれり 葉 初に紫とらるるまともあふくも思ひ咽也

一けららるる 教書文字ひらくくもららさ也 心うべ

一けらるる 花鳥 山海經云

東海有黒齒國 其俗婦人 齒黒潔 今葉日本 東海乃

中れ國也 俗よるる 音いふらるる 女いたちく

うねとけざれば 古代のおどおのるる 一そ紫の娘も十歳

一わらうらうら 齒黒めとらるる

一けりわり 仁和荇河の行幸 次章 八条院 為作 寄出

興う 俊初 造階 恨ま 見使 尸王 記天慶六年也 今葉南

階のろよ 柱と二こころ 上を少るる 守をさるる

とく云 鳳輦とひんぐ じらるる とも人あだのワさるる

葉れ下ぬ あんま也 一葉のこころ 山本 花鳥

叶の中九云 葉のこころ けとらるる 葉のやうよ けとらるる

のろらめちるる 一葉のこころ 花鳥の詩

春とつ 侍のまいあひはあひ ころ 夏也 海島の葉花のまよ

らとて けりあちり 一けかざらり けくさるる 時

そく目くく けられて けらるる け上り けらるる けりあちり

一葉の 鶯さえ けり 春鶯 晴 弄花 丁名 天長 宝壽 末と云

一けらるる 髪さるる 調音の中 海松と一さるる けりあちり

のへりもつらむびまの布と用馬ハ牝は本丁のふ紙をわ

みしてつらむびまの布と用馬ハ牝は本丁のふ紙をわ

一にうぐ 入学也

一に海馬は馬島ハ枕也けを

わらう島也若もわめとけとわらう也敬と海

と引割るもつらむびまの布と用馬ハ牝は本丁のふ紙をわ

一日本記 吹巻始神代至持統天皇御記

一西山ちりぬる 仁和寺と云也 光孝天皇御記

仁和年中はけくれらうら 仁和寺と号をり 又藤平門

ハ天曆六年三月に出家して四月に仁和寺に遷りあつた物

終の集在院ハ藤平門に准じてこれと云合書也

一に一のう十方 後集西行過十方億佛土有世界名爲極

糸 河津地組

一にひもつらむびまの布と用馬ハ牝は本丁のふ紙をわ

あつたおよ白ひるこ云也とつらむびまの布と用馬ハ牝は本丁のふ紙をわ

えび深の袖ハ女上人の下製の袖なり

一にけうりくぬ身身とて ぬるの声とぬ身所のつらむび

とてよありぬ身とてぬるの声とぬ身所のつらむび

一にがさ 純とらうら心 一にぶつここれと云わいゆるべき

梅仙密 容貌 似舅潘妻仕之外甥氣論如兄崔季珪之小

妹 氣潤のいさざり兄のこころと云わいゆるべき

の夏とらうら女一交よ似あくる白雲の兄とていせぬとみ

と云心也 手一ぶら女二交のぬるこやうとわいゆるべき

もつてらうら一ぶら女二交のぬるこやうとわいゆるべき

女メおとちりオチリとてトも用也モヨウ也ヤ組クミとてト細ヒメと付ツキちり

一佛ハツツツのノごゴのノ仏ハツツツはハ滅メツたタ人ヒトもモ常ジョウ住ジュ此コノ不フ滅メツ也ヤとト説セツ法ハフ也ヤ不フ滅メツとトちりチリとトてト子コ還ヘン歎タンとトてト危キ云クニのノ心シンとト云クニ也ヤ

一ハツツツぼんボンのノちりチリやうヤウのノ花ハナ

帳チヤウ臺ダイのノ人ヒトはハ仏ハツツツとトちりチリとトてト經キヤウのノ札ツツとトれレとトてト

一ハツツツ仏ハツツツのノおオのノちりチリ可カ觀カン經キヤウ云クニ阿ア彌ミ陀タ佛ハツツツ去クニ此コノ不フ遠エン極ゴク末マツ莊サウ嚴エンとトいハク

やヤらラうウとトてトちりチリ也ヤ

一ハツツツ仏ハツツツのノちりチリのノ人ヒトはハ法ハフのノ義ギ事ジをヲ

のノあアもモ也ヤ

とトてト下ゲにニ地チちりチリのノまマとトちりチリとトてトのノ丹ニ也ヤとトのノずスとトいハクはハいハクとトいハクぬヌ

地チちりチリのノまマとトちりチリとトてトのノ丹ニ也ヤとトのノずスとトいハクはハいハクとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリ經キヤウ云クニ實ジツ法ハフ者ハ不フ誑クワン者ハとトいハク

一ハツツツほホのノちりチリしシ 負オウ信シヨウ云クニ建ケン立リツとトいハクぬヌ

一ハツツツ仏ハツツツのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

一ハツツツほホのノちりチリとトいハクぬヌ

我の心は... 人よすつて... 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 何海 四生の中れ化生と云へん

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

へんじの物とわくも也 瓶子とわくも也

花菱のうゝありつづれもなれりまなれ舎也^{ナレシヤ}もなれりまなれ
はぢり月人もすまもり塵よ^{チリ}もなれりまなれ

一このおのりさふそとらげらるなり 花鳥^{ハナトリ} 夜ひするを満よ人

乃とへまわれ房の前よてこいげれといへふぬべいとそ

一とらひどのとら 花鳥^{ハナトリ} 山羽林抄云宿申^{ヤマノエリノマフ} 空子時危陣毎

刻夜行^{キョクヤコウ} 丑寅刻は右陣^{ウヂノマ} 勅之^{ツキニ} 丑刻物節^{ウシノキノモノフシ} 一人申^{ヒトノコシ} 宿申^{スグノコシ}

由らと略々^{ユラカク} 一とらひわけるは虎狼^{トラオオカミ}

一交らとら 我ひとらとさへいふ鳥の友とつれてひなれ也いのも

一とらは源も又抄の人よとらとらふ事もやわらんと也

一とらひ 知人也^{シルヒト} 一とらふやうにぬれも也くやと也

一とらひげいものよはは風よ弄十三^{サイチ} 歳の時遣唐使^{トウタウシ} して

波斯國^{ハシラク} には到^{タツ} り 阿育王^{アユウワウ} 造像の者也^{ゾウゾウノモノナリ} 河内^{カヘン} 羅羅^{ララ} 琴を造^{タツ} てわ

とへて変わり花うつかの物語^{コト} げらるるにせもなれそは

うへはうらうら^{アララ} 志^シ 風よわひて波斯^{ハシ} 生^{ニキ} 行又梅檀^{ウメタン} 花^{ハナ} 下^{シタ} り 琴^{キン}

と引てわさふ^{トソホ} 越^{イタル} して琴とら^{キン} とら^{イタル} ひ極^{キマ} てるり霜^{キナ} 雪とら^{ユキ} とも

天地どうごり^{テンチドウゴリ} 日^ヒ がいよく^{イソ} けて名とわけ^{ナナワケ} へる也

一とらはれ^{ヒト} 尤^{モト} の前會^{マエノカヒ} 幸^{ユキ} 申^{ノコシ} の前會^{マエノカヒ} 也

一とらはれ^{ヒト} ぶ^フ この^{コノ} 笑^{ウタガハシ} 子^コ こそ^{ココロ} 親^{オヤ} に^ニ 渡^{ワタ} る也

一年^{イツネン} うら^{ウラ} けて^{ケテ} 家^カ の^ノ ね^ネ ころ^{ココロ} して^{シテ} 落^{オチ} 雲^{クモ} 休^{やす} 閑^{かん} の^ノ 夏^{なつ} 三月^{ミケツ} まで也

一とら^{ヒト} の^ノ 大^{おほ} き^き や^や 一^{ヒト} 大^{おほ} 政^{せい} 大^{おほ} 内^{うち} 大^{おほ} 新^{あらた} 任^{にん} 受^{うけ} 召^{めし} の^ノ 事^{こと} 記^き

一とら^{ヒト} の^ノ 中^{なか} の^ノ 良^{よし} 光^{あかり} こそ^{ココロ} 第^{だい} 取^と 由^{よし} 也^{なり} 巾^{きん} の^ノ 喜^こ 也^{なり} 左^{ひだり} の^ノ よ^{よし} ころ^{ココロ} して^{シテ} 法^{ほう} ぞ^ぞ

と^と 事^{こと} なる^{なる} べ^べ 一^{ヒト} 年^{ねん} 忌^き 一^{ヒト} 説^{せつ} ごと^{ごと} なる^{なる}

ちう。琵琶ゴハをそらうと云 一申將のさよのほろをれもつづみ

女月四日と荒年番又日とあるニテ花テ手サ結三もた近乃

真年結テ也女月又日あるれり。夕チ中將左近ありあふ。

とのごと引つれてあくんずる由ハ持也 手もつづみ馬

ゆこの時二人はけりて射イ事ス終

ちううんよちめんきつづき心也二仏の中男也

ちうすささる透ス也 一ちうす地鋪チ唐延カ太鼓

高カ藤へちうけり物也 一ちうす快ガ貴ス 書物の快也

一ちやうれりつづき院の廳タの志シつづきのほつひれり

人ありべし 一ちうす乳チ志

とめと云也ちうす心 一持チ佛ブツ 持佛堂チブツドウのいもつと

られされども先佛ニシホキク供養キョウの用意也

一ぢんのようチの棚タ也ちんチの沈シ也 一ちやうしチぞめシ丁チ子シ深シ番シの番

一ちうす心也 一ちうす心也 近衛チエニ太將チヤウ

一ちうす心也 一ちうす心也 一ちうす心也

一ちうす心也 一ちうす心也 一ちうす心也

り

一りじぶれもそわそひ 何ナニもあらぶる外ソトの事とする

と條時リジと云也 一りじぶれ糸イトの細ホ 賀カ茂モ乃

條時リジの糸イト十一月トキはあふ事也 尚ナカ日ヒの中ナカの酉トリ也是コトと小コ糸イト

と云也 御ミ未ミ八ハチ年ネン日ニチ也 肉ニク衰セとてわぬ

一りられちるへハ律リツハ社シャとけりささる女メも社シャとつささる也

御意

御意

はらちの十月もれど冬ハ秋ニ属ス

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

付らり本朝冷備のお湯も呂律と陽陰に用事云々

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

ぬ

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

一 柳花苑 上吉にあり舞也今ハ終る也

...

...

...

...

とらう人の下ごさねとやらわりの略儀をぞぞしてゆり

一にほやけぐらひおぼくさうしうご守日よそ中將實首とら

よらう宣下のこももうけ結とらや

一をらうとらにせん自然の母あらわらうとねとせん

一にらうぐらひ臆痛の心や一にらういほ氏のこらとら

とらあねよらうての字を入らや

一たうにそくのすまは源也心とをく心とらうとら

一にほあすむら常れ袍は指費と着して裾とらうら

ねの更也並衣は裾とらうとらけらねとらとらとらとら

されらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

也。大人のすまはとらとらとらとらとらとらとらとらとら

ぬとらとらとら

わらう

源内内を源氏

のたまうとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

一にらうとら男とらとらとら一にらとらとらとらとらとら

花村とら女親子肉親主天延三年とらとらとらとらとら

小海徽子女主童明親主とらとらとらとらとらとらとら

小息とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あひそひて下物の例とらとらとらとらとらとらとらとら

一をらとら子う未通女子百サ女日本記し女

一にらうとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

一にらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

中とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あつたの端と活合して丸とひらりふけ持もやび女ひもちりこ

云イラフ 懼ヒヤシ也 一不ヒはえ敷カミ 秋王サイワキマツ 神京の時ヤマト 大和ヤマト

路チとて持津チツと越ヒて難波ナニハとてもくもく七日大和の儲所ミツケトコロ

日ヒ付給十日入京ニギマタ 給也故大和夜カホヒ 新文ニギマタ 般京キキヤウ 旅館也リョウカン

平コダイニド代一コダイニド女メのメ旅タビ不ハられレばハ蒸モふカとソのソくクもモや

一恩賜オンミのノ衣キヨイハハのノ函コトこコ 去年今宵侍清涼キヨコヒハシ 秋憶詩篇アキオモシヒ 独ヒト

断腸ダンチョウ 恩賜オンミ 御衣ミヨウ 今在イマニ 拵ホシ 将シヤウ 毎ハイ 日ニヒ 拜イハス 餘ヨリ 番バン 聖廟セイボウ 作サセ

一此コノのノ内ウチ身ミもモれレずズ 此門コノカドのノ源ヒトはハ此コノがガあアるル 夏ナツのノ前マエより

こころココロさサらラるル されレばバ 給タマひヒ 給タマひヒ ことコトこコろロこコろロ

一不ヒはハのノ後ノチ 大炊オホイトリ 殿ノ 新ニジ 様サマ 承ウケ 記キ 巨オホキ 炊イリ 屋ヤ 旧キウ 記キ 多タ 大炊オホイトリ 屋ヤ 記キ 也ヤ

一此コノのノ月ツキもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

此コノのノ月ツキもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一不ヒはハのノ星ホシのノ光ヒカリ也ヤ 七夕タニシチ 糸イトはハ此コノのノ後ノチのノ衣キヨイをヲ上ウりリ 也ヤ

星ホシのノひヒもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一不ヒはハのノ星ホシのノ光ヒカリ也ヤ 七夕タニシチ 糸イトはハ此コノのノ後ノチのノ衣キヨイをヲ上ウりリ 也ヤ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

一此コノのノこコろロもモつツひヒ 給タマひヒ 給タマひヒ 三ミ 条ジョウ 院イン 志シ

四十六 四十七

經故獲罪如蓮花

論語曰

子游問孝子曰今日之孝者是謂能養至於大馬皆能有養不敬何以別乎

一 大原野の行幸 延長六年十二月八日大原野行幸と稱し

一 花鳥毒略

一 花鳥やけがぬきてさう不

一 父つゝは私にりて立せしむるも不さされぬま内侍のこの

一 職にりてにりていぶさういふらぐもさうや又されども人

一 一ちりぐりぐり父落葉をせ

一 一この社の禱とるは似紫と云はるは父の常のちり思とる也

一 一れがくもは月よハ三月ちれば八月廿日代とるべされ 花の誤れ

一 一にちりの 蘭ハ菫衣の心よせとる夕も玉も大原の縁と也

一 一女ハちりよとるふ婦人有三後之義と專用之道故嫁後

一 一父既嫁後父死後子故父者子矢也又者妻矢也保れ養子か

一 一れども又父あり母あり身也

一 一をさうちりつて 姫老女のとちり

一 一ちりちりて 比尋密通の事とくちりてちりてちりて

一 一の川よちりちりて人の瀬とるちり人の妻とるちり

一 一おもはざりて ちりちりちり

一 一にちりちり 中道ハ玉への通ちり

一 一にちりちり 鳥ハ巢よ二夜くちり物と也玉と鴨子比ちり

一 一印の不見ちりちり 一ちりちりちり 思崩

舟多きり 一ちくこい 一夜我のあひまひーするにせむとそいあごごごごは

世よふらひもども也 一木されの何ぐー 竹は夜の霧の

る名地のこも波のあふり 一たーくぬわ このこい葉とよき

あふり 入道余温祭 ぬ薪盡火城 方便品

一たぐこい けいこもすべふは摘と罪と成るわさ

一火ぐこい 馬と幻うそく術をらぐこい葉のゆきとるそと也

一か忌とそ 青摺十一月廿九日新嘗會辰日豊明節會よ

山あわそそすれんぞと云物成是すりちり

一れ佛名も 義和元年十二月十九日始之云今ハ吉日撰り

一たはれれ 源のゆきとそく又柏の夏何のこもあふり流し

一たはれれ 源のゆきとそく又柏の夏何のこもあふり流し

一ちりてふば 葉をらぐこいばれもさそんそれゆも

一ちりあがれそ ちりあがれそ心

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

一ちりあがれそ 王氏の四位也人目わんごの時をこ然まりちり也

行為業 河 無慚法師或懺愧也

一われくそ 舟の中にあゝとて 教と可心得

一わらわさ 急座や 一わげらう 無垢也

一わらもれ 虚俗 ころもや

一文衣 四位給女の惣名也 山門の衣服をわらう時あは

ひあふ人ちうりよらうとて 更衣とつらうり

一わんごらめ 云卿也 たふたにわらふれゆきと云らう月卿

とらうと云 彌也

の字也 又冊

う神 日本記 忍心也 ねがひ天子れぬ也

一わららそ 今をわらうとて

の心也

更衣のさもくともあんとあんとあんとや

一わらひらさ 一わらひらさ 一わらひらさ

一からつ 隠也

一わらわらつ けり 一わらわらつ けり

心也 誰と けり 心也 けり 心也 けり

一わらみ 河 記念 権信 文集

一わらうらうらわと 更衣のさもくともあんとあんとあんと

又みゆもとて 一わらうらうらわ

一わんご 金釵

一わらうらうら

一わらうらうら

八條^{チチ}ちどの^{ロシキ}編^キ後^キの時^{シヨウキ}。神^シ者^{シヤ}。ねどり^シ入^シじ。威^イ後^キの^キ磬^キを
打^ウち^チす。す。後^シの^シ編^キ後^キと^シや^シひ^シや^シと^シ心^シも^シ也^シす^シら^シり^シ

一か^シら^シい^シも^シひ^シ〜^シち^シ〜^シう^シま^シ〜^シ結^シも^シ也^シ

一か^シら^シの^シう^シま^シ〜^シも^シ〜^シち^シ場^シ也^シ。さ^シら^シじ^シ回^シも^シ也^シ。〜^シも^シも^シ体^シ

字^ジ也^シ。 一か^シら^シら^シて^シ人^シち^シ〜^シも^シも^シ也^シ

一か^シら^シの^シひ^シ ち^シさ^シる^シ人^シの^シ〜^シち^シら^シち^シら^シも^シ也^シ

一迦^カ陵^{リョウ}頌^{ソウ}伽^カ ^{カミラノ}聖^{シヨウ}主^{シュ}天^{テン}中^{チュウ}天^{テン}伽^カ陵^{リョウ}頌^{ソウ}伽^カ聲^{シヨウ}。法^{ホフ}華^ケ經^{キョウ}伽^カ陵^{リョウ}頌^{ソウ}伽^カ

伽^カ在^シ声^{シヨウ}勝^{シヨウ}衆^{シュウ}鳥^{ニョウ}〜^シ或^チ迦^カ陵^{リョウ}實^{ジツ}。或^チ云^ク伽^カ陵^{リョウ}頌^{ソウ}伽^カ者^{シヤ}梵^{ボン}語^ゴ也^シ伽

陵^{リョウ}〜^シい^シこ^シの^シ中^{チュウ}〜^シも^シ也^シ 一神^シち^シ〜^シも^シ也^シよ^シり^シて^シい^シ〜^シも^シ也^シ

大^{ダイ}後^コ云^ク〜^シう^シゆ^シ〜^シも^シ也^シ。同^{ドウ}若^{ニョク}延^{エン}壽^{シヨウ}の^シ大^{ダイ}井^{ケイ}乃^ノ切^キ

華^ケよ^シ富^フ小^コ路^ロの^シ息^{シツ}可^カの^シ丸^{マル}版^{バン}の^シ親^{シン}主^{シュ}の^シ七^{シチ}歳^{サイ}〜^シも^シ也^シ。舞^{マヒ}も^シも^シ

さ^サせ^セめ^メら^ラ〜^シち^シら^シの^シ〜^シも^シ也^シ。ゆ^ユ〜^シも^シ也^シ。方^{ホウ}人^{ニン}〜^シも^シ也^シ

これ^{コレ}ぬ^ヌ人^{ニン}の^シゆ^ユ〜^シも^シ也^シ。ち^チら^ラ〜^シも^シ也^シ。ひ^ヒら^ラ〜^シも^シ也^シ。う^ウ〜^シも^シ也^シ

〜^シも^シ也^シ。ひ^ヒ〜^シも^シ也^シ。山^{サン}の^シ神^{カミ}〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

一か^シら^シの^シち^シら^シ 舞^{マヒ}臺^{ダイ}と^シ垣^{カキ}の^シや^ヤう^ウ〜^シも^シ也^シ。互^{タビ}々^{タタ}〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

代^{シロ}や^ヤ警^{ケイ}固^コ也^シ。四^シ十^{ジュウ}人^{ニン}の^シ〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

有^シ序^{シヨ}〜^シも^シ也^シ。破^カ〜^シも^シ也^シ。人^{ニン}〜^シも^シ也^シ。恒^{コト}代^{タイ}三^{サン}十^{ジュウ}六^{ロク}人^{ニン}〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

一か^シん^シ〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。〜^シも^シ也^シ。

舞臺

舞臺

一かきあしをさざりし 御子とさくくしうを海をいつり

一かきあし 編編をうて扇と作初けり也 常の扇也 仍なる扇

の異名也 持扇ありあし

一かくさうしあをさるん 定家つかよはくさう 親行かよし

又まぢづひんらまぬ流は色流平也 鄂城の女のさ

うは 奉天のすしとせや 又文志と草文者 白頭吟と云

一かきあしをさるん 定家つかよはくさう 親行かよし

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

一かくちとさうしあをさるん 花 花高よにれ抱さるるしとて 舞

あり煙のなごり中宿の麻をさるるあり也

一かげのくもりのしほのまへにまじりて 宣令の初掛畏

一かもしつらさしんりて此の法とい 孫王そらうこもひべー

孫主為汝院 訓真子内親主 文徳継王中誓 惟彦親王 仁和五年 上達孫主

同此一夜のゆめ ヨツテ 何れもあはれさうさうこも也 枕花鳥三葉

一かげのくも 秋風かゆりに昔おぼゆる心やおさづかあり

ひーもあがれが也 一人さひ 辞退也

一かぢのうらうぜい カダシ 軽呼 朝呼 タラシ せうさうこも也

一かぢのまねといん 天稚彦門之湯津楓樹 ユヅ 旧夏本記

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也 何れもあはれさうさうこも也

絶えつらうと續絶とさぬ、後也、然ハ是も平絶の末也

白装のうらうさうさうさうさう也

一かんのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一かぢのまね カダシ 何れもあはれさうさうこも也

一 かつらつんくさくさく かつらつん方ちやび時か咽石れ巻の冬也

一 かんやがらうりれき紙どいして 昇じいして張う也紙巻のノ

切て毛紙すきい紙きとやいれさハ唐綺やくれす物也

一 かつらゑいんごうまそそ 紙とつておこれいふおのやういふ

ちうひけいけいそそそ也昔ハ綿よふかち一也上の約ハ中城也

もそとらうりすい比せはくおろりあき紙とさうのよきお

れいりゑゑいんごうまのゆゑとさるや指達才九約云庶義公紙也

一 わと馬ひけりかきさき 俗よとくくと云ん

くありや四圍ちり 一 かつらよらうりこらりあつな

甲 暖 暖堂 して紙をたやういふこの紙もや又桂院 暖院

と今也 本位れ夜おき也 一 かつらごもごもごも 中茶云桐子

先妻 一 かつらひらげきものひて 昇 林好

のさといそそ 徳女の下門も 舞昌かん時と也

一 神さびけり年月のらう 深の久志き 義義の力云 神国又

神宗と久志つて成心や又久志也 一 神つがちりもさるちり 落雲く

れ給 桃園文ちがれ 承りうりて也

一 かつらつめ 雪とらうり雪の巻

一 かつらあつ風 糸の具ハ桂つらうりてと也

一 かつらあついんごうまわらうりおひけりやわらうり也 常衣の肌襦き

いふそそ 除服のいそとさきんせり也 故例よらうり

一 凡のちうりけりすくちり 文選 豪士賊序 落葉 俟 微風

隕而風力蓋寡凡の力大なる中れ替わねば不成とわ
今いふもそもも源氏のちしつふいふもなほいふべし。かぐん
るす不可成とらわ

一凡のまれ行ふ風生行本意
同月月廻松時臺上行朝

一かくせりつうふそつうひつ
くれいや羅のづく後日ひつふふりふ日ふけくいふひひ

一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ

一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ

一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ

唐東京錦 日かともなはる唐の姿はよ也 今案
白浪と東京海ともいふ也 一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ

いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ

一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ
いふて舞や袖ふりけりしほの海に渡りてつうふふひひ

一風少げは波の音入 晴蛉日記云石山よきて曲とてつうふふ
心波の流ちやぶらばわらわらてあはれ申ふらつらつ給あが云々
近江の若木女一 一かくせりつうふそつうひつふふりふ日ふけくいふひひ
不見蓬草

不^ス敢^ハ敢^ハ童^ニ男^ト童^ト女^ト舟^中ニ^{シテ}老^シ文^集

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也

喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

の^心也^カ平^ノ調^ノ也^カ次^ノ判^ノ盤^ノ涉^ス也^カ

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

本^ニ祀^ス一^ニ云^ハ天^照太^神踏^堅庭^而陷^殿若^沫宇^以饗^散今^集

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

の^心也^カ平^ノ調^ノ也^カ次^ノ判^ノ盤^ノ涉^ス也^カ

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一^カわ^リり^とあ^りま^りの^キ喜^シ春^ニ采^リ呂^ト也^カ反^リ音^ニ呂^トり^リ律^ニり^リつ^つを^ミ也^カ鐘^ノ調^ノも^シ律^也

一かれこんのこうまふ 唐織物の小紋也

一わらわられありの海況也 一かんころち 昔日ちりす

一わすれ物の合敷て春日と伊勢ありて暮りて春日の若狭の
物もや中文の必成氏ありて秋好の中文を古後社の宿中をひりて

一かりづえ うも落也 一かひささぶらさ あや〜

一かろうの踏舞此あひつ者しつは 一わらわらりませ 物と早よあはす

一かろりあひつり神也 一かろれびるづつらあ〜ずや

一人か得院よてい別よ〜 一かろれびるづつらあ〜ずや

一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一かんちちわう 一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一かんす〜 一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

記應和元年閏三月十一日夜宴舟系夢 一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

又河水系と云況も 一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一かろ〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一かせうとて風心うとの心也 一かつ〜ひげ 髪髯おもづ〜ひげ也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一かいせんら〜 海青系 水色のね也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也

一か〜とせびげ志の娘志の麓中〜とせ〜路〜ゆ也



